

Edulution

令和5年度千葉県教育庁教育振興部
学習指導課ICT教育推進室発行
GIGAスクール通信 vol.13 (R5.10.11)

教育 (Education) × 進化 (Evolution) の造語
「ICT」を効果的に活用することで、
教育の次なるステップを目指しましょう。

市原市立国分寺台西小学校におけるICTを活用した授業実践

市原市立国分寺台西小学校では、市原市教育委員会が市内全小中学校の全普通教室に整備をした電子黒板及び全小学校1年生から3年生の教室に整備した書画カメラ、全小中学校に整備した指導者用デジタル教科書等を活用した学習を進めています。市原市のICT環境整備の取組と併せ、授業の様子を紹介します。

(1)市原市のICT環境整備の取組

市原市立国分寺台西小学校の生田校長は令和4年度まで市原市教育委員会に在籍し、市原市内のGIGAスクール環境を整備してきました。市原市の環境整備についてお聞きしました。

IChiHaRa 市原市GIGAスクールの概要 市原市教育委員会 (R2.11時点)

●学力を基礎にして、必要な情報を収集・分析し、それを活用して主体的に課題解決する子どもの育成

「GIGAスクール構想」とは

- ◆ Global and Innovation Gateway for All
- ・ 1人1台端末と高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備する
- ・ 多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力を一層確実に育成できる教育ICT環境を実現する
- ・ ICTの活用により全ての子どもたちの学びを保障する
- ・ これまでの教育実践とICTのベストミックスにより、教師・児童生徒の力を最大限に引き出す

市原市GIGAスクールを支える仕組み

- ◆ 1人1台タブレット
- ・ GIGAスクールタブレット (児童生徒、教員用)
- ◆ 授業での活用実践
- ・ 電子黒板
- ・ 授業支援ソフト (画面共有など電子黒板との連携)
- ・ 高速インターネット環境
- ・ デジタル教材 (指導者用デジタル教科書)
- ・ オンライン活用機器 (モバイルルータ) の貸出
- ◆ 自宅での活用実践
- ・ AIドリル (学習状況に応じて出題される電子ドリル)
- ・ Microsoft365 (学校と自宅間の学習データ共有)
- ・ オンライン活用機器 (モバイルルータ) の貸出
- ◆ 研修等、各種支援
- ・ オンライン研修用ビデオコンテンツ
- ・ GIGAスクールアドバイザー (コーディネータ:各校を訪問し、各教員の課題を解決) (イノベーター:市全体の新たな授業構築等の助言・支援)
- ・ 推進研究校 (国府小) での先導的研究実践の展開
- ・ デジタル化を活かした各種情報提供システム

市原市GIGAスクールの考え方



市原市では全普通教室に「電子黒板」を、小学校1年生から3年生の全教室に「書画カメラ」を整備し授業に活用しています！



◆ IChiHaRaスタイル

① Innovative Introduction	導入段階	1人1台タブレット環境に慣れる	シームレスな展開
② Class-Use	授業での活用実践	授業の中でのより効果的な活用を進める (効率的で理解が深まる授業)	
③ Home-Use	自宅での活用実践	自宅に持ち帰り、家庭学習に役立てる (反復学習 (予習・復習)、AIドリル学習)	
④ Re-Innovation	新たな教育	新たな授業の構築、個別最適化を目指す (学びの個別化、21世紀型スキルの育成)	

◆ 新たな学習・授業スタイルの構築 (変革から日常へ)

一斉学習	授業中でも一人一人の状況を効率よく把握できる	子どもたちの状況をふまえた、双方向型の一斉授業の実現
協働学習	一人一人の考えを相互にリアルタイムで効率よくかつ効果的に共有できる	子どもたちが多様な考え、意見に触れることで、より深い学びの実現
個別学習	一人一人が同時に別々の内容を学習し、その履歴が記録される	子どもたち一人一人の学習状況に応じて個別最適化された学習の実現
家庭学習	AIドリルなどを活用し、一人一人が主体的かつ柔軟に学習が進められる	授業をより理解するための予習・復習を中心とした家庭学習の習慣化

【市原市が実施した主な環境整備】

- ①全普通教室に電子黒板の設置とタブレット端末を連携させる授業支援ソフト
- ②電子黒板単体で利用できる指導者用デジタル教科書
- ③学校と自宅で利用できるAIドリル教材 (オンライン・オフライン学習)
- ④オンライン授業コンテンツ作成用の機器 (ビデオカメラ・HDMIコンバータ)
- ⑤教員向けオンライン研修コンテンツ
- ⑥動画のストリーム通信環境の構築
- ⑦GIGAスクールアドバイザーの導入
- ⑧GIGAスクールWEBマガジンの定期発行
- ⑨GIGAスクール研究推進校を新たに設定
- ⑩デジタル化を活かした各種情報提供システムの新規導入



(2)授業でのICT活用の様子



【1年生 図画工作科】

教師が書画カメラを使い、パレットの使い方や色の混ぜ方、筆を使った塗り方について電子黒板に拡大提示しながら児童に丁寧に説明をしていました。児童は教師の示したやり方を実際に見ながら学習を進めていました。

【4年生 国語科】

児童の発表の様子をオンライン会議システムを使って他の学級に共有し、3学級合同の発表会を行っていました。

【書画カメラ+電子黒板】

低学年の児童は、教師のやり方を真似ながら学ぶ場面が多くあります。

書画カメラを使い、教師の手元を電子黒板に大きく映し出すことで、視覚的により分かりやすく手本を示すことができます。

ノートの使い方の指導等、低学年児童への学習指導に効果的です。

児童は各自の端末に共有された評価シートを使い、他班の発表について評価をしていました。

【オンライン会議システムを活用した授業例】

(市原市)

- ・市原市「チバニアン」現地からのオンライン授業
- ・ニュージーランド現地校との交流授業
- ・自動車工場とのオンライン社会科見学
- ・企業のオンライン参加によるプログラミング学習

(3)市原市立国分寺台西小学校 生田 勲 校長先生から

先生方が働きやすい環境を作り、意識を変えていく

児童生徒の情報活用能力について

GIGAスクールの成果として、児童生徒の情報活用能力を測る必要がある。市原市では、令和3・4年度に、市内の小学校2年生、5年生、中学校2年生を対象に、**独自に作成した情報活用能力育成のための調査**を実施した。

主な成果としては、機器の扱いには慣れ、自由に使いこなしていると考えられる。しかし、課題としては、自分自身を表現するツールとしての使いこなしに難しさを感じている児童生徒が多く見られた。今後も継続して調査をし、情報活用能力の育成とGIGAスクールの今後に役立てていきたい。

活用効果について

GIGAスクールが始まって、約3年が経ち、少しずつではあるが成果が出てきている。ここでは、自分自身が感じている活用効果について述べる。

- ①電子黒板が全普通教室に整備されているので、ICTを苦手とする先生も、デジタル教科書を映して、**まずは使ってみようという意識**が変わってきた。
- ②多くの授業研究において、GIGAスクール環境が利活用されている。また、通常の授業や家庭学習など、**タブレット端末が日常的に活用**されている。
- ③先生方も児童生徒も、**いい授業を創ろうとする意識**が高まってきている。

最後に

私は、学校長として大切にしていることの一つは、**先生方が働きやすい環境を作り、意識を変えていくこと**だと思っている。GIGAスクールも同じことだと思う。**先生方が使いやすい環境を整備し、新しい教育、授業づくりをしていくための意識を変えていく**ため、精一杯推進している。

このGIGAスクール環境を活かし、本校では、研究主任を中心に通常の校内研修に加え、打ち合わせ後のミニ研修、授業研究など全員で取り組むことで実現に近づけようとしている。また、基礎学力定着の観点から、朝自習の算数問題を電子ドリルに切り替え、全児童一年生の問題から取り残しのない学びに挑戦し始めた。まずは、一步一步の前進から頑張ってみようと思う。